

第1回 バスタ新宿の管理運営に関する検討会

議事概要



【バスタに求められる機能面から見た運営管理に係る課題について 1/2】

バスタに求められる機能	課題	委員からの意見
基本機能 バスやタクシー等への乗降や乗降までの移動・待合、また、車両の拠点内の移動や停留・待機、交通ターミナルの運営等、交通拠点が備えるべき基本的な機能	○昼間のバスバースの有効活用を図られていない	①空き枠を活用することは大事なこと。 ②バスタ新宿から <u>グレードの高い観光バス</u> を発着させことができると「ばす旅」のイメージアップにつながる。 ③日中帯は高速バスの需要構造から空いているのが実情である。
	○コロナ禍の影響が完全に回復していない	④地域との繋がりに資する <u>高速バス</u> を利用した「ばす旅」を広めていくべき。 ⑤交通弱者が迷わず目的地に到着できる「ばす旅」の <u>便利さを伝え、地方への観光産業活性化に寄与</u> できるとよい。 ⑥需要としてどの方面、どこへの発着、どの時間帯といったところで <u>潜在的な需要</u> が拾えていないか、供給面では <u>行き先のニーズ</u> などについて、 <u>動的に動いていくべき</u> 。 ⑦どんな人が乗っているのか、既存の鉄道や航空輸送との競争関係が変わっているのか、どの交通モデルで移動する選択肢を取られているのか、 <u>コロナ後の需要構造をよく分析</u> 。
サービス機能 交通拠点を利用する歩行者の利便性向上に係る各種サービスの提供を行うための機能	○利便性向上に資する新たな施設の設置	⑧バスタ新宿だけでなく <u>新宿駅周辺の外側からも収益を呼び込むような活用</u> をされることで、経営を頑健とすることを検討するべき。 ⑨タクシー乗降場付近の <u>空きスペースに第二のコンビニを置く</u> など有効活用できると良い。 ⑩維持管理費や <u>中長期的な修繕費</u> も生じるという点では、 <u>収益のためにも空きスペースの活用</u> は必要。 ⑪ <u>デジタルサイネージは地域の情報発信として有効</u> 、外国人向けに <u>英語での情報発信等</u> を検討するべき。

第1回 バスタ新宿の管理運営に関する検討会

議事概要



【バスタに求められる機能面から見た運営管理に係る課題について 2/2 】

バスタに求められる機能	課題	委員からの意見
地域の拠点・賑わい機能 まちづくりと連携し、賑わいのある空間を創出するための機能	○地域の情報を発信する設備や機会が不足 ○甲州街道等の活用	⑫待合所設置のデジタルサイネージで地域の情報発信を行っている。 ⑬バスタ新宿という有効な場を活用して、バスタ新宿と繋がる都市の <u>地域観光イベントを、地方の観光協会や自治体、バス会社などが連携した開催を検討すべき。</u> ⑭貨客混載もターミナル機能の1つとして取り組んでいきたい。
防災機能 交通拠点の交通機能を災害時においても確保するための機能。	○災害時の情報提供設備が不足 ○災害時の役割整理とそれに向けた対応の整理	⑮情報提供や代替輸送もあるが、 <u>バスタ自身が被災したときのことをもう少しどこかの形で考える。</u> ⑯待合所設置のデジタルサイネージで災害時の情報発信を行っている。
交通結節機能 交通拠点における多様な交通モードが一体となって機能するよう、交通モード間を円滑に接続するための機能	○バスタ周辺の回遊を促進するシェアモビリティ等との結節を考慮	⑰バスターミナル内にシェアモビリティが入ってくると交通事故の心配がある。